

感想文

開業医が最前線で コロナに立ち向かう

神戸支部は5月26日に協会会議室で「コロナ禍における開業医の役割」コロナ後遺症とワクチン症候群の病態にもふれて」をテーマに研究会を開催。尼崎市・長尾クリニック院長の長尾和宏先生が講演し、24人が参加した。岩本善高先生の感想を紹介する。

先日「コロナ禍における開業医の役割」というテーマで講演を拝聴させていただきました。長尾先生とはコロナ禍もあり、長らくお会いできておらず、クリニックの窓を割られたり誹謗中傷を受けておられるという話を伝え聞いてひそかに心配しておりました。が、ますますバイタリティー

に溢れており、意気軒昂に話をされている様子を見ることができて、まったくの杞憂と分かりました。講演の内容はコロナ禍において開業医の果たすべき役割、ワクチン後遺症、イベルメクチンについてなど多岐にわたりました。コロナ感染もワクチン後遺症も早期発見、

当院ではコロナワクチン後遺症の症例を実際に診察したことはありませんが、長尾クリニックには、診察を断られたり診断のつかなかった方々が、全国各地から受診に来られるとのことで、まさに最後の砦になっておられるようでした。

イベルメクチンに関しては、発見者の大村先生とも会談を重ねられているようですが、大村先生もイベルメクチンに無限の可能性を感じておられ、まだまだ研究を深めておられるようです。さらなる知見の集積が楽しみです。

長尾先生は信念を貫く過程で、ワクチン賛成派からも反対派からも非難される立場のようですが、目の前で困っている人を助けたいというシンプルな気持ちで動かれていることが伝わりました。私自身はワクチン接種に関しては十分な勉強もできておらず、思考停止に陥っていることを反省する機会となりました。長尾先生が、今後も最前線でお元気に活躍されて、私たちを導いてくださることを願っております。



開業医こそコロナ禍で果たす役割が大きいと語る長尾先生

早期治療が良好な治療成績につながるの
で、病院任せにせず地域
の開業医が最前線に立って
コロナに立ち向かう姿勢が
大事とのこと

【中央区 岩本 善高】